



インフルエンザとは一般には流行性感冒(流感)と呼ばれる季節性インフルエンザのことで、毎年のように寒い時期にウイルスによって引き起こされる急性の伝染病です。

今年4月ごろより世界的に大流行しています。この原因は、新たにブタから人に感染してひろまった新型ウイルスが出現したためで、未だ私達の体内に免疫力が備わっていないためといわれています。

今日も外来では「新型の注射を、私も受ける事ができるでしょうか?」と、高齢の患者さんから不安そうに聞かれます。基礎疾患があり治療中の高齢者にとって、感染への不安は当然です。しかし新型のインフルエンザのワクチン

## インフル機に生活習慣見直しを

は、現在供給が未だ十分ではありません。接種を希望される方は、市や町などの広報を確認していただき、医療機関に詳細をお尋ね下さい。5月から10月までの間、公立南丹病院でインフルエンザが確認された患者さんは514名で、0〜24歳が453名(88%)を占め、65歳以上の高齢者はわずか1人でした。この事は高齢者ほど、新型インフルエンザに対する免疫力があることを意味します。

油断は禁物ですが、うつらないよう、うつさないために、マスク着用、うがいや手洗いの励行、人混みへの外出を出来るだけ避けて下さい。そして感染流行期であることを常に念頭におき、十分な睡眠、バランスの取れた食事の摂取、規則正しい生活をおくる事が重要と考えます。この機会に健康的な生活習慣を学びたいものです。

(公立南丹病院院長 梶田芳弘)